

平成30年度国立大雪青少年交流の家第1回施設業務運営委員会
学校利用促進部会議事要旨

日時：平成30年6月26日（火）15:00～16:00
場所：国立大雪青少年交流の家 多目的研修室

運営委員出席者：川島委員、伊東委員、田中委員、新居委員、北島委員（岩間氏代理）、佐藤（正）委員

計6名

運営委員同席者：笠井委員長

計1名

大雪青少年交流の家（事務局）

出席者：是安企画指導専門職、佐藤企画指導専門職、和泉事業推進係員

計3名

（●事務局 ○委員）

●開会宣言

●自己紹介

●資料説明

事前送付の資料を確認する。

本日は、議題が2つあり、現在の学校宿泊研修の状況についてと今後の方策として機構本部、交流の家でどんな取り組みをしているか、説明し、ご意見をいただきたい。

資料1は、平成30年度の学校宿泊利用数の見込みについてである。現在、小学校23校、中学校19校、高校39校で、前年度と比較すると小学校5校、高校2校が増え、中学校は1校減っている。全体としては増えている。

昨年度利用があったが今年度は申し込みがない団体、または今年度の申し込みを受けたがキャンセルになった団体に、理由を聞き取ったところ、学校の方針が変わった、宿泊先を数年ごとに変えているというものがあった。学校の方針というのは、キャリア教育のため企業見学を行ったり、自主研修先を決めて宿泊先を決めたりしているというものである。中学校ではその傾向が強く、継続利用と新規利用が約半数になっている。資料1の参考1では、宿泊研修の宿泊先の割合は青少年教育施設よりホテルなどの民間が多くなっている。

追加資料の「今年度の利用学校一覧」を見ていただくと、中学校、高等学校は1校当たりの利用人数が多く、宿泊数も2泊となり、利用の増減が利用者数に強く影響する。

まずここまでで、質問はあるか。

○委員

とくになし。

●事務局

引き続き、次の説明に入る。追加資料の実際の利用プログラムの例をまとめたものを説明する。小学校では運動会の後から夏休みまでの間で利用が多く、施設周辺でのハイキングやパークゴルフ、学校や地域ではなかなか経験できないニュースポーツを行う学校が多い。例で挙げているA校は、到着後に焼き板を行い、晴天時ウォークラリー、夜に着衣水泳を行った。着衣水泳では外部指導員を呼び、実施した。二日目も前日の天気によってプログラムを変え、できるだけ外で活動できるものを選んでいる。B校もクラフト活動、外での活動を行っており、特に、入所前に川の学習を5年生の理科「流れる水のはたらき」という単元の時数にカウントして行った。夜は美瑛町郷土学館「美宙」の講師に来ていただき、星空学習を行った。二日目はウォークラリーを実施した。

中学校は、滞在時間が短くなっている傾向がある。来所前と退所後に研修をしている。以前は登山をする学校が多かったが、減ってきている。

高等学校では、圧倒的に4月・5月の利用が多く、仲間づくり、学校や進路に関するガイダンス、学校生活への期待へつなげる活動を行っている。また交流の家職員がコミュニケーショントレーニングを指導している。集団への一員と感じるプログラムを多く取り入れている傾向がある。

以上が、現在の小中高の利用の例である。

何か質問はあるか。

○委員

先日、宿泊研修で着衣水泳の指導をしていただいた。学校のプールではなかなか指導できないので、あのような経験は必要である。ぜひ来年も実施していただきたい。

●事務局

ありがとうございます。

次に説明及び協議事項の2に移る。当国立青少年振興機では学習指導要領の改訂やコミュニティスクールの導入に対応した学校支援ができるよう方策を行っている。

「集団宿泊活動サポートガイド」の冊子について説明する。

この冊子内では、本州の例があるが、北海道は1泊2日がほとんどであり、教科の時数を使って宿泊研修を行うことには、なかなか対応できていない。泊数が増えれば、すべてを行事等の時数にあてるのが難しくなるので、教科の時数にカウントできるようにするための

考え方方が書かれている。

参考資料の他の国立施設の指導案の作成経緯と内容を説明する。

教員経験職員が全施設から本部に集まり、教科に関連づけた体験活動プログラムを作成した。大雪で作成したものは、看板プログラムの登山を内容に取り入れた。内容は他の施設でも使えるようなものになっている。

また、旭川市内の小学校2校と美瑛町内の小学校1校と協力し、学校のニーズを聞き、どのようなプログラムを提供すると良いか実験的に行っている。その内容が資料2-1、2-2である。大雪で外部講師を呼び、今後に向けたアンケートも実施した。

さらに大雪では、以前からニーズのある、野外炊事活動のできる炊事場とテント場の建設を行う。炊事場は野外活動棟隣りに80名程度、小学校約2クラス分を受け入れできる広さのものを作り、またパークゴルフ場の半分を使用し、テント場を設置する予定である。実際には、31年度から利用できるように計画している。ぜひ新たな利用団体を獲得していきたい。

以上である。各委員より御意見、御質問などはないか。

○委員

旭川の学校がこんなに少ないとは思わなかった。昔は宿泊研修といえば大雪だったが、今は他の施設が多くなっている。そこも、札幌で研修して泊まる場所だけになっている。

たとえば、企業訪問がプログラムとして多いので、美瑛町とタイアップし、町内で職場体験ができるプログラムがあると良いと思う。

●事務局

御意見、ありがとうございます。

○委員

利用状況をみると、大きな学校の利用が見られる。200名以下では道立施設を貸切で利用できるから来ていないと思う。

また来年度の希望調書では、4月の希望のほかに5月の希望も書くように変更になったが、とても困った。なぜなら、4月以外の月は入れられない、入れたくないのが現状である。5月は高体連、6月はテストと全道の高体連、7月は学校祭と行事が続く。だから、4月に殺到するのではと思う。

ほかにも広報について、校長会で情報提供をするのはどうか。以前に話した時は「行っている」と説明を受けたが、実際は校長会には来ていないと思う。稼働率50%を切りそうだということなども、説明に来ると良いと思う。

○委員

何度も幅広く利用させてもらっている。また、地域のPTAの行事でも利用できると聞いて、すぐ利用させてもらった。今後も続けていけると良いと思う。大雪の利用方法として、大げさな利用ではなく、ピンポイントで利用できるようになると良いと思う。パークゴルフコースが半分なくなるのは残念だが、学校としては野外炊事などを、うまくキャリア教育や教科学習につなげるプログラムを考えないといけないなと思った。

○委員

幼稚園では遊びを通して学ぶことが基礎になっている。大雪の取り組みで、遊び場を作るという計画があると聞いた。遊び場とは何かよく考える必要があると思う。そこで小学校の指導要領の改訂があつて、自発的な遊びを促す環境作りが明記されたので、幼稚園からの連動が分かりやすくなった。しかしながら、遊びを通じての学びとは何かを考えなければいけないと思う。出来上がったものではなく、ある環境とある道具で一晩過ごすなどが遊びで、それが学びにつながるのかなと思う。やってみないとわからないところもあるが、大雪の遊び場がそういうことも考えられる場になればよいと思う。

●事務局

時代のニーズ・期待に応えられるよう検討していく。たとえば直接指導などは希望が多いが、職員の割振りなどが間に合っていない状況である。どう工夫していくが求められているということかと思う。

○委員

大雪の一番の売りは、専門職が教員だということだと思う。ここを利用する学校は、授業の一部として来たい学校と自然を体験したい学校、勉強合宿として使いたいなど色分けができるていると思う。それはここの施設の良さが関わっている。その日常から離れて、学校でやらなければならないことを、引き継ぎできるということが可能になると良いと思う。ちょうどこの場に小中高の校長会の方が来ているので、いろんな学校のプログラムを頂戴し、参考にするとよいと思う。

ほかに以前耳にしたことがあるのが、引率者が使いづらいというものである。もっと引率者のニーズに応えられると、利用につながるのではと思う。

●事務局

体験活動のよさも説明しながら、利用につなげたい。

○委員

追加資料をみると、昔とずいぶん変わったと感じた。高校の人数も減った。小学校、中学校も人数が減っている。加えて、多様なニーズがあるなかで、今使っている学校は何を求め

て利用しているのかを知り、生かすことで現在利用している学校の満足度をもっと高めることが大切だと思う。

○委員

自分が小・中学生だったときは、この施設は厳しいところだという印象しかない。しかし、今考えると必要なかなと思う。ニーズを細分化すればするほど、どこにニーズがあるのかをつかみづらくなる部分もあると思う。ここで体験できることはこれだ、というのがあると、引率の人はまとめやすいと思う。

自分は今の大雪の在り方がすごく好きである。昔と違う、子どもたちのことを考えたやわらかい運営の方向に来ている中で仕事をされているのが好きで、応援したいと思っている。

●事務局

ありがとうございます。

閉会宣言。